

公益社団法人千葉青年会議所  
2016 年度 基本方針

2016 年度理事長  
須 藤 俊 基

基本理念

失敗を恐れず、新しい取り組みを率先的にはじめること。

スローガン

挑 戦

～できない理由は考えず、どうしたらできるのかを考えよう～

基本方針

1. 価値ある J C 運動の実践
2. 地域を愛する会員の拡大
3. 現代に必要な真のリーダーの意識醸成
4. 次世代を担う青少年の健全育成
5. 地域交流ネットワークの再構築
6. 郷土愛を追求したまちづくり

## ◆はじめに

「恒久的世界平和」を根幹に「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、次世代の担い手となる20歳から40歳までの社会的リーダーを志す青年が集い、1960年7月に千葉青年会議所は設立され2016年度は創立57年を迎えます。我々は行動綱領として「個人の修練（トレーニング）、社会への奉仕（サービス）、世界との友情（フレンドシップ）」の三信条を根底に、互いに切磋琢磨することで社会を生き抜く力を身につけ、地域経済や社会に貢献しうる人材を常に輩出しつづける組織としてさまざまな運動を展開してまいりました。

昨今の世界情勢は予測のつかぬ事件や自然災害が相次ぎ、地域で起こる問題もその変化に大きく左右されます。そのような時、正しい解決策を選択できる「判断力と決断力」、そして組織においては地域一丸となって行動を興せる「説得力」を兼ね備えた真のリーダーが現代には必要と考えます。私たちJAYCEEは、未来を担う変革の能動者であり、「明るい豊かな社会」の実現のために率先して行動し続けなければならないのです。

## ◆青年会議所の存在価値

千葉青年会議所にはこれまで培われた素晴らしい伝統があります。それを学び、継承する一方で時代に先駆けた「挑戦」を常に行動に移していかなくてはなりません。それは伝統や作法を踏まえた豊かな心と自国（＝地域）を誇れる歴史観を念頭に、更に新しき領域に突き進むことだと考えます。その過程で、皆が未来に向かって力を合わせ、汗を流し、達成感という感動を共有していきましょう。その結果として、千葉青年会議所の伝統をより深め、本物の価値を創造するような活動が生まれてくるはずです。未来に向かって、力を合わせ、失敗を恐れず「挑戦」していきましょう。

## ◆地域を愛する会員の拡大

我々が掲げる「明るい豊かな社会」の実現に向けて大切なことは、地域社会の一員として自覚と覚悟を持った地域を愛する同志を一人でも多く募り育てることです。会員拡大と人材育成を成功に導くのは、JC運動を自らが主体的で前向きに取り組むのか、それとも様々な理由をつけて逃避したり後ろ向きに取り組んだりするのかによって大きく左右されます。前者でいるためには、我々自身がJAYCEEとしてプライドを持つことであり、本気でJC運動を語る人材をどれだけ多く育成できるかにかかっていると考えます。メンバー一丸となり、まだ見ぬメンバーにJC運動の素晴らしさに触れる機会を提供し、自身を成長させる貴重な経験が得られることをしっかりと伝え、会員拡大に繋がります。魅力ある団体に人は集まってくるのです。

## ◆現代に必要な真のリーダーの意識醸成

「恒久的世界平和」を目指し、地域・日本・世界で活動をしている青年会議所は単なるボランティア団体ではありません。この国このまちを継続的に発展させることができる真のリーダーを育成する場であると考えます。今後JC運動を展開していくためには、会員一人ひとりが使命感・責任感に溢れ、そして自律心をもったリーダーとならなければなりません。「地域・国のリーダー」や「青少年の規範」としているのであれば、まずは、自らを厳しく律し、己の資質を高める取り組みが不可欠であると考えます。そして、大局的な視野を持った中で、まちのため・地域のため・国のためという気概と使命をもって自分の可能性に「挑戦」することが必要なのです。

また、千葉青年会議所の活動エリアのみならず、千葉ブロック・関東地区・日本青年会議所そして国際青年会議所へと、自分の知らない自分を発見できる多くの学びの機会をメンバーが待っていることを今一度認識し、勇気を持って一步を踏み出していきましょう。

## ◆次世代を担う青少年の健全育成

世界第3位の経済大国である日本が衣食住に恵まれているのは言うまでもないことです。教育においても初等教育・中等教育と9年間の教育を受けることができます。現在の子供たちを取り巻く環境は、我々の子供時代から見ると大幅に変化しております。アナログからデジタルへ変化し、政府は、平成28年にはタブレット端末を利用し、電子教科書の普及を目指しています。ただ、環境が便利になる一方で、他人に対する無関心やインターネット・携帯電話の普及による対面的なコミュニケーション不足などが目立ち、自分の得られる情報の中でのみ判断し、親や友人にアドバイスを求めずに勝手に行動してしまう子供たちが増えているという背景もあります。

我々はこれらの問題解決に積極的に取り組むとともに、未来を生きる子供たちに体感をする場を提供していかななくてはなりません。思いやりがなければ周囲と良好なコミュニケーションが図れず、孤立してしまいます。次世代を担う子どもたちが日本以外の国を見ることによって生まれるさまざまな出会いや自然との触れ合いの中から感動と感謝を体感し、友人同士で励まし合い、競い合って成長することで次世代の育成を促します。

## ◆地域交流ネットワークの再構築

現代を生きる青年経済人には、日本のみならず世界規模の視野で物事を考えたうえで、身近な問題の解決に取り組むことが求められております。我々 JAYCEE は、世界 100 カ国以上にネットワークを有しており、250 万人以上の OB 特別会員に支えられ、今日の JC 運動を行っております。千葉青年会議所も国内外に友好 JC・姉妹 JC を有しており、我々は、彼らとの交流を通じて、地域に何を伝えることができるのかを共に考えなくてはなりません。

我々は、世界の中の日本という国の一員なのであると改めて認識するべきであります。そのためには、自国（＝地域）を誇れる歴史観と確かな国家観を持ち、世界を見て・感じて・経験した中から我々（＝日本人）をもう一度見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。まずは、自分のルーツを知り、地域を知り、日本を知り、世界を知ったうえで自己を確立させ、これからの未来を担う我々責任世代が日本人であることに誇りを持つべきだと考えます。

## ◆郷土愛を追求したまちづくり

郷土に対する誇りを持たずに自国（＝地域）を愛する気持ちや日本人の心は育めないと確信しています。まずは我々が率先して郷土を愛する人となり、まちづくり運動を通じて我々の住むこの地域を愛し、誇りを持つ人を育み、同志を増やし、私たちの住むこの地域を豊かで情緒と人間味溢れるまちとなれるように JC 運動を展開していかなければなりません。

世代や団体の枠を超えたネットワークを構築できるのは青年会議所だからこその事だと考えます。時には、市民や他団体の声にも耳を傾けたり、共に活動することで、既存の観念に捉われない広い視野を持ちながらまちづくりをしていきたいと考えます。

## ◆結びに

どこの国や地域でも、JC 運動は JCI CREED・JCI MISSION・JCI VISION の唱和から始まります。それは、世界中の JAYCEE が同じ綱領や使命をもっているからであります。先輩たちが築きあげてくれたこの青年会議所のネットワークを更に活かし、キャピトル LOM として、もっと世界中の JAYCEE と共に学ぶべきだと考えます。民族・言語・国土・文化・宗教といったナショナリズムに捉われるのではなく、新しい環境に果敢に飛び込もうではありませんか。行動なくして結果は生まれません。

# 「挑戦」するからこそ 人は輝き続けることができるのである

一度しかない人生、自分で決めたならばすべてを賭けようではありませんか。失敗してもいいのです。全てが成果であるから、我々は成長できると信じていますから。